

平成29年6月定例会の概要

6月定例会は、平成29年6月5日から19日までの会期15日間の日程で開催しました。今定例会では、2億5093万円的一般会計補正予算（第1号）案ほか、12議案を審議し、それぞれ可決しました。

また、20件の人事案件に同意し、9件の報告を受けました。ここでは、補正予算特別委員会での主な質疑の内容を紹介いたします。

補正予算特別委員会（質疑の抜粋）

【総務費】

生涯活躍のまち推進事業について

問 支援業務委託料及び補助金に係る事業内容について、詳しい説明を求めらる。

答 シニア層の仕事の充実に向け、「お試し就労」を実施するとともに、市内事業所に対して、「雇用やワークシェアの対応状況などについて、アンケートを行う。また、補助金については、シニア層の生活の充実に向け、趣味や教養を深める講座等を開催するほか、仕事や生活に関する情報提供や、相談・交流ができる拠点を開設するための経費に充てる。

【民生費】

子ども・子育て支援事業について

問 親の貧困が子供に連鎖しているという問題点から、この度、子供の生活に関する実態調査を行うとあるが、どのようなスケジュールで実施するのか。

答 国の補助金を使い、県と合同で調査する。まず、8月末に調査を業者に委託し、9月中旬に各学校へ調査票の配付を行う。回収については、10月上旬を予定している。分析結果報告については、翌年1月末頃を予定している。

【教育費】

（仮称）毛利一族のふるさと協議会負担金について

問 日本遺産認定の申請に係る協議会と考えるが、昨年も申請して落選した。今年度は、どのように改善し申請するのか。また、認定後の本市のメリットはあるのか。

答 今年度は、三市町が連携することによって、表現できる魅力が何かを再検討し、ストーリーに盛り込んでいく。本市のメリットとしては、認定されれば一定の補助金が出るものと考えている。

【債務負担行為】

駅前東館跡地活用事業に係る、債務負担行為補正について

問 駅前東館跡地の活用を検討するにあたり、ペアシティ三原西館の今後

の活用方針との連携が必要ではないか。

答 ペアシティ三原西館は、公共施設マネジメント、中心市街地活性化、コンパクトシティ形成の3つの視点を持ち、公共施設の集約化と合わせて検討していきたい。

問 「グラランドデザイン」を策定した後に、駅前東館跡地活用事業に着手すべきではないか。

答 「グラランドデザイン」は、駅前東館跡地だけのものではなく、50年先を見越した、市中心部などのあるべき姿としての、将来像を市民ワークショップも行いながら策定するものである。

討論・採決

【討論】

補正予算特別委員会では、審査された一般会計補正予算（第1号）案ほか1件の議案のうち一般会計補正予算案について反対討論が行われた。

・反対討論

駅前東館跡地活用事業の債務負担行為補正16億7000万円を認めるべきではない。過去の三原駅前の姿を顧みて、この官民複合施設が、決してにぎわいや、活性化に繋がらないと考えている。

【採決】

討論された一般会計補正予算案は、起立採決の結果、賛成多数で可決。ほか1件の土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）案については、全員一致、原案どおり可決した。

